



けんこう がつごう 健康だより 10月号

れいわ ねん がつ にちほつこう
令和4年9月30日発行
かんのん ちょう ほいくえん
かんのん町 保育園

がつ かんせんしょうじょうほう
9月の感染症情報
RSウイルス 2名
ヘルパンギーナ 2名
手足口病 1名

あき き おんさ はげ ため か ぜ
秋は気温差が激しい為、風邪をひきやすくなります。ご家庭では背中を触るなどして
かくにん あせ
確認し、汗をかいているようなら衣服を取り替えてあげましょう。また、てあらい、
うがい をこまめに 行う 習慣 をつけ、規則正しい生活でウイルスを寄せ付けないようにしましょう。

よほうせっしゅ けいかくてき う 予防接種を計画的に受けましょう！



よほうせっしゅ しぜん かんせん じゅうしやうか びやうき たい
予防接種は自然に感染すると重症化しやすい病気に対して作られています。病気にかかる前に免疫をつけたり、
かんせん ぶん かん せきそく せいかつ う い る す
感染を防いだり、かかってしまっても軽くて済むようにするものです。

よほうせっしゅ びやうき なか いま ひと
予防接種がある病気の中には、今はかかる人がほとんどいない病気もありますが、それはみんなが予防接種を受けて発生が抑えられているからです。病原自体はなくなっていないので予防接種を受けない人が増えると、その病気がまた流行する可能性があります。

よほうせっしゅ う けんこうの ーと きにゆう
◎予防接種を受けたら健康ノートに記入してください。

どうじせっしゅ 同時接種のいいところ！

☆接種した日から免疫がつき始めるため、
より多くの病気に対して早く守られます。

☆病院に行く回数が減ります。
同時接種は別々の場所に接種し、安全であることが確認されています。



がつ か め あいごでー 10月10日は目の愛護デーです！

◎子どもの視力低下について
「見え方」は周りの大人にも分かりづらいもの。普段の様子に注意し、早期発見を心掛けましょう。

①おもな 症状
「目が見えにくい」という状態は3種類に分けられます。
近視…近くは見えるけれど遠くが見えづらい
遠視…近くにも遠くにもピントが合いづらい
乱視…物がぶれて見える
斜視…片方の目が見る物とは違う方向を向いてしまう
不同視…左右の視力が大きく異なる
眼瞼下垂…まぶたが上がりにくく視野を妨げる等も視力低下の原因となります。



②治療の基本
子どもは徐々に視力が上がっていき、5～6歳で1.0ほどになり、9歳ごろに視機能が完成します。視力が発達する時期によく見えていない状態で放置すると、脳や神経の働きも成長しにくく、視機能が未発達のままになってしまう可能性があります。そのため、早期発見と適切な矯正が大切です。幼児であれば、0.5以下が治療開始の目安です。

こ どもに起こりやすいけがや事故、その時の対応

・肘内障 → ひじの関節の靱帯がずれた状態のことです。高い所から落ちて肩やひざなどを強く打ったり、転んで手を突いたり、子どもの腕を引っ張ったりしたときなどに起こりやすいです。また、子どもは体が柔らかいせいか寝ている時の不自然な格好で負荷がかかる事があります。その負荷で肘内障を起こすこともあります。痛がるほかに、腕や足がぶらぶらしていたり、いつものように手足を動かさない、関節の動きがおかしい、など症状が見られたら動かさずに下から支え、すぐに整形外科を受診しましょう。6歳を過ぎると靱帯が十分に発達し、次第に起こらなくなります。家庭で起きた際には、保育園で過ごすにあたっての肘内障の聞き取りシートをお渡しするので、記載して持ってきてください。近年、肘内障になる子どもが増えてきました。保育園でも起こりやすい怪我の一つであるため、体を起こすときは脇を持ち、腕を引っ張らないように気を付けています。



また、日々の運動遊びや体操教室などを通じて、怪我をしにくい体づくりを楽しく行っています！

